様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　２５年　５月　３１日現在

機関番号：３４４２５
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2009～2012
課題番号：２１７３０５３３

研究課題名（和文）論作文産出スキル育成のためのメタ認知活用システムの構築

研究課題名（英文）A study of the system construction related to making good use of meta-cognitive knowledge on essay writing

研究代表者
崎濱　秀行（SAKIHAMA　HIDEYUKI）
阪南大学・経済学部・准教授
研究者番号：３０４１３２８０

研究成果の概要（和文）：
本研究では、大学生の文章産出（特に、論作文等、意見の主張等論理的思考力を伴う文章の産出）の際に必要な書き手のメタ認知（メタ認知的知識）に着目し、文章産出時における活用が文章産出活動や産出文章に及ぼす影響を検討した。その結果、産出文章の得点に上昇が見られた書き手と下降が見られた書き手が存在したものの、双方の書き手ともに、メタ認知的知識を活用しようとしていたことが示された。

研究成果の概要（英文）：
Purpose of this study is to examine the effect of paying attention to meta-cognitive knowledge on essay writing activity and text undergraduate students produced. Results showed the followings; (1) the increase and decrease of the score of the essay varied according to the students, however, (2) they tried to make use of items of meta-cognitive knowledge when writing an essay.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００９年度	1,000,000	300,000	1,300,000
２０１０年度	800,000	240,000	1,040,000
２０１１年度	600,000	180,000	780,000
２０１２年度	500,000	150,000	650,000
総　計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：教育心理学
科研費の分科・細目：教授・学習過程
キーワード：論作文産出，メタ認知的知識，メタ認知活用システム

１．研究開始当初の背景

先行研究において、文章産出を行う場合、書き手は「内容」「構成」「修辞」に関わる何らかのメタ認知的知識を持っており、それらを実際の文章産出時に使用していることが示唆された。そのため、書き手（特に大学生）の文章産出スキルを高める上で、「内容」「構成」「修辞」に関わるメタ認知的知識の中身を明らかにし、それらを実際の文章産出時に活用できるような何らかのシステムを構築することが必要である。また、書き手がそのシステムを活用して実際の文章産出活動を行うことも重要であろう。しかしながら、先行研究においてはメタ認知の構造化についてはこれまで Berninger ら（1996）や崎濱（2003）において行われてきたくらいであり、他の知見ではあまり検討がなされてこなかった。また、Berninger ら（1996）の場合は

文章産出活動（プランニング、文章産出、推敲）に関する事項に限定した尺度を、﨑濱（2003）の場合は情報伝達文を対象として「伝わりやすさ」「読み手の興味・関心」「簡潔性」といった、文章産出活動を包括した尺度を作成していた。そのため、本研究で扱うような論作文を対象としたメタ認知の構造化に関する検討はあまり見られない。ただし、Butcher & Kintsch(2001)、石岡（2004）では、論作文採点に係る評価観点として「内容」「構成」「修辞」の３側面を挙げており、これらの事項は文章産出の際に書き手が活用していると思われることから、これらの側面に対応したメタ認知的知識に関する項目を収集した上で尺度を作成し、論作文等の文章産出の際に書き手が重視している事項を検討することは必要不可欠かつ急務な課題である。また、大学生の書き手が本研究によって開発された尺度を活用し、自身の文章産出スキル育成を図ることができるためのシステムの構築、実際の運用も必要不可欠である。

２．研究の目的

上記の問題点を踏まえ、本研究では以下の事項について検討を加えた。

(1)文章産出プロセスにおける書き手のメタ認知的知識の中身および構造の検討（尺度作成を含む）

(2)メタ認知的知識重視度合いを測る尺度の項目を実際の文章産出時に活用するためのシステムの構築

(3)論作文産出時にメタ認知的知識を活用することが書き手の文章産出活動や産出文章に及ぼす影響の予備的検討

３．研究の方法

(1)論作文産出に関する書き手のメタ認知的知識の側面に関する検討（2009 年度）

先行研究を基に、論作文産出に関する書き手のメタ認知的知識の側面に関する検討を行った。文献収集にあたっては、文章産出時における書き手の意識、産出文章の評価に関する文献等、できるだけ多領域の文献を収集した。

(2)論作文産出に関するメタ認知的知識の構造の検討（2009 年度～2011 年度）

①メタ認知的知識に関する項目の収集

先行研究のレビューを踏まえ、論作文産出に関するメタ認知的知識の構造を検討する上で必要な項目の収集を行った。本研究が主に大学初年次を対象にすることを想定していたため、まずは高等学校国語科教科書における意見文や小論文産出に係る留意事項を抽出した。その際には、本研究で用いる「内容」「構成（論理構成）」「修辞」の側面を反映する項目を抽出した。

②メタ認知的知識の構造の検討

収集項目を精査し、大学生（主に大学初年次生）を対象にした調査を行い、論作文産出時におけるメタ認知的知識の構造を検討した。

③メタ認知的知識重視度合いと産出論作文の得点との関連の検討

メタ認知的知識の構造の検討に加え、メタ認知的知識各事項の重視度合いと産出論作文の得点との関連を検討した。

<u>＜メタ認知的知識重視度合いの検討＞</u>

・各々の項目について、論作文産出を行う場合のどの程度行うのかを７件法で質問（１：まったくあてはまらない～７：非常によくあてはまる）

・質問項目については、②のメタ認知的知識の構造を検討するのに用いた項目（計 46 項目）に、＜産出論作文の得点＞中に示す JESS の採点基準と関連のある事項（７項目）を加えた計 53 項目を用いた。

<u>＜産出論作文の得点＞</u>

・メタ認知的知識重視度合いに関する調査に参加した大学生を対象に論作文課題を行い、課題によって産出された文章を JESS（石岡，2003）によって採点した。（修辞/論理構成/内容各側面について５点満点）

④メタ認知的知識重視度合いを測定するための尺度の作成

メタ認知的知識重視度合いと産出論作文の得点との関連の検討結果を基に、メタ認知的知識重視度合いを測るための尺度を作成した。

(3)メタ認知的知識重視度合いを測る尺度の項目を実際の文章産出時に活用するためのシステムの構築（2012 年度）

メタ認知的知識重視度合いを測る尺度の作成とともに、尺度中の項目をチェックリスト化した。次に、文章産出課題を行い、課題によって得られた文章の得点を算出した。その上で、チェックリスト中の項目のうち、産出文章の得点の低い側面に関連する項目をチェックし、次に行う文章産出課題の際には書き手はチェック項目に留意しながら文章を産出することが可能になるようにした。

(4)論作文産出時にメタ認知的知識を活用することが書き手の文章産出活動や産出文章に及ぼす影響の予備的検討（2012 年度）

(3)におけるメタ認知的知識の活用システムを利用し、論作文産出時にチェックリスト中のチェック項目を活用することで、書き手

の文章産出活動や産出文章に何らかの変化が見られるのかどうかを検討した。期間は３ヶ月で、論作文課題（文章産出活動）はこの中で３回行った。

まず、３ヶ月の初期と終期にメタ認知的知識重視度合いに関する調査を、文章産出活動直後にはメタ認知的知識活用度合いに関する調査を行った。そして、活動終了後、チェック項目提示前/提示後の文章産出活動に関する質問紙調査を行い、文章産出活動に関する変化について検討を加えた。産出文章については、JESS を用いて修辞/論理構成/内容の各側面を得点化した（５点満点）。

４．研究成果

３．の研究の方法で述べた各事項について検討を加え、以下の結果を得た。

(1)論作文産出に関する書き手のメタ認知的知識の側面に関する検討（2009 年度）

先行研究の検討の結果、論作文産出に関する書き手のメタ認知的知識の側面として、「内容」「構成」「修辞」の側面を見出した。

(2)論作文産出に関するメタ認知的知識の構造の検討（2009 年度～2011 年度）

①メタ認知的知識に関する項目の収集

高等学校国語科教科書における意見文や小論文産出に係る留意事項を抽出し、これらの項目について TRUSTIA を用いて分類を行った。その結果、10 のカテゴリーが得られたが、その中の３カテゴリーがそれぞれ「内容」「構成（論理構成）」「修辞」の側面を示した。

②メタ認知的知識の構造の検討

①で収集した「内容」「構成」「修辞」の側面の項目を用いて、大学生を対象に、論作文を産出する際にメタ認知的知識各事項をどの程度用いるか（行うか）を尋ねた。しかし、調査によって得られたデータを用いて因子分析を行ったところ、「意見・主張・考えの伝わりやすさ」「文章自体の伝わりやすさ」「全体の構成の明確さ」の３側面が抽出され、本研究で想定している「内容」「構成」「修辞」の３側面とは異なる結果が得られた。

③メタ認知的知識重視度合いと産出論作文の得点との関連の検討

④メタ認知的知識重視度合いを測定するための尺度の作成

②の結果を受け、メタ認知的知識各事項の重視度合いと産出論作文の得点との関連を検討することとした。大学生を対象に、メタ認知的知識重視度合いに関する質問紙調査および論作文課題を実施した。そして、両者の結果について、各項目―産出論作文の得点間の相関係数を算出し、最終的に、７項目を抽出した（修辞４項目、構成（論理構成）２項目、内容１項目）。

(3)メタ認知的知識重視度合いを測る尺度の項目を実際の文章産出時に活用するためのシステムの構築（2012 年度）

(4)論作文産出時にメタ認知的知識を活用することが書き手の文章産出活動や産出文章に及ぼす影響の予備的検討（2012 年度）

３ヶ月間で３回の文章産出活動を行い、その初期―終期におけるメタ認知的知識重視度合い、文章産出活動直後におけるメタ認知的知識活用度合いに関する調査を行った。また、２回目の論作文課題の採点結果（JESS による採点結果）を基に、低得点の側面に関するチェックリスト項目にチェックを行い、採点結果とともに書き手に返却した。そして、３回目課題実施時にチェック項目に留意するよう教示を行った。結果は以下の通りである。

・メタ認知的知識重視度合い、およびメタ認知的知識活用度合いの評定値自体には初期―終期間で変化は見られなかった
・２回目論作文課題―３回目論作文課題間においては、チェック項目に係る側面の得点が上昇した書き手、下降した書き手が見られた。しかし、文章産出活動に関する質問紙の回答結果を検討したところ、文章の得点が低下した書き手、上昇した書き手ともに、チェックリスト中の項目を反映させて文章産出を行おうとしたことが記述されていた。本実践検討は予備的検討のため、こうした書き手のチェックリストの事項を反映させて文章産出を行うことによる書き手の産出文章の変化を検討するにはさらに調査対象者や文章産出回数を増加させることが必要である。しかしながら、チェックリスト提示前後のみ予備的に検討を行った本検討においても、書き手はチェックリストを反映させようとしていたことは示された。このことは、本研究におけるチェックリスト（チェックリスト中へのチェック事項）提示の効果を示唆していると考えられる。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）

（査読無し）

崎濱秀行(2013)．論作文産出におけるメタ認知的知識の側面に関する検討　阪南論集人文・自然科学編,48(2),83-91.

〔学会発表〕（計１１件）

（査読あり）

Sakihama,H.(2011).A study of the

relationship between meta-cognitive knowledge on essay writing and essay score. The 16th Biennial Conference for Research on Learning and Instruction, Exeter, U.K.（2011 年９月）

（査読なし）

崎濱秀行(2012a).論作文産出練習初期－終期間での産出文章得点の変化および初期/終期における文章得点間の関連についての検討　日本教授学習心理学会第８回年会予稿集,40-41.（2012 年６月　早稲田大学）

崎濱秀行(2012b).論作文産出方略の重視度合いが書き手の産出文章の評価に及ぼす影響(2)　日本心理学会第 76 回大会発表論文集,1075.（2012 年９月　専修大学）

崎濱秀行(2012c).論作文産出練習前後における文章産出活動方略重視度合いの変化に関する検討(1)　日本教育工学会第 28 回全国大会講演論文集,447～448.（2012 年９月　長崎大学）

崎濱秀行(2012d).論作文産出練習前後における文章産出活動方略重視度合いの変化に関する検討(2)　日本教育心理学会第 54 回総会発表論文集,97.（2012 年 11 月　琉球大学）

崎濱秀行(2011a).論作文産出方略の重視度合いが書き手の産出文章の評価に及ぼす影響(1)　日本教育心理学会第 53 回総会発表論文集,259.（2011 年７月　北翔大学）

崎濱秀行(2011b).論作文産出方略の重視度合いが書き手の産出文章の評価に及ぼす影響(2)　日本心理学会第 75 回大会発表論文集,1183.（2011 年９月　日本大学）

崎濱秀行(2011c).論作文における論理構成得点の変化が文章産出方略重視度合いの評定に及ぼす影響　日本教育工学会第 27 回全国大会講演論文集,805～806.（2011 年９月　首都大学東京）

崎濱秀行(2010a).論作文産出に関わる書き手のメタ認知に関する検討(1)　日本教授学習心理学会第６回年会予稿集,42-43.（2010 年７月　北海学園大学）

崎濱秀行(2010b).論作文産出における書き手のメタ認知の様相　日本読書学会第 54 回研究発表大会資料集,85-92.（2010 年８月　全林野会館）

崎濱秀行(2010c).論作文産出に関わる書き手のメタ認知に関する検討(2)　日本教育心理学会第 52 回総会発表論文集,523.（2010 年８月　早稲田大学）

〔図書〕（計１件）

崎濱秀行(2013). 文章産出スキル育成の心理学　ナカニシヤ出版（128 ページ）

６．研究組織

(1)研究代表者

崎濱　秀行（SAKIHAMA　HIDEYUKI）
阪南大学・経済学部・准教授
研究者番号：３０４１３２８０